



LLDP、LLDP-MED、および接続ロケーションサービスの設定

この章では、Catalyst 2975 スイッチに Link Layer Discovery Protocol (LLDP)、LLDP Media Endpoint Discovery (LLDP-MED)、および接続ロケーション サービスを設定する方法について説明します。特に明記しないかぎり、スイッチという用語はスタンドアロン スイッチおよびスイッチ スタックを意味します。



(注)

この章で使用するコマンドの構文および使用方法の詳細については、このリリースに対応する コマンド リファレンスおよび『Cisco IOS Configuration Fundamentals Command Reference, Release 12.2』の「System Management Commands」を参照してください。

- 「LLDP、LLDP-MED、および接続ロケーション サービスの概要」(P.25-1)
- 「LLDP、LLDP-MED、および接続ロケーション サービスの設定」(P.25-5)
- 「LLDP、LLDP-MED、接続ロケーション サービスのモニタおよびメンテナンス」(P.25-11)

LLDP、LLDP-MED、および接続ロケーション サービスの概要

LLDP

Cisco Discovery Protocol (CDP) はすべてのシスコ製デバイス (ルータ、ブリッジ、アクセス サーバ、およびスイッチ) のレイヤ 2 (データ リンク レイヤ) で動作するデバイス ディスカバリ プロトコルです。ネットワーク管理アプリケーションは CDP を使用することにより、ネットワークに接続しているシスコ製デバイスを自動的に検出し、これらのデバイスについて知ることができます。

他社製デバイスをサポートし、他のデバイス間での相互運用を可能にするため、スイッチは IEEE 802.1AB Link Layer Discovery Protocol (LLDP) をサポートしています。LLDP は、ネットワーク デバイスが、自身の情報をネットワーク上の他のデバイスにアダプタイズするために使用する近接ディスカバリ プロトコルです。このプロトコルは、データ リンク レイヤで動作するため、異なるネットワーク レイヤプロトコルを実行する 2 つのシステムで互いの情報を知ることができます。

LLDP は近接デバイスの検出に使用する一連のアトリビュートをサポートしています。これらのアトリビュートは、タイプ、長さ、値の記述が含まれ、TLV と呼ばれます。LLDP をサポートするデバイスでは、TLV を使用して、ネイバと情報を送受信できます。このプロトコルは、設定情報、デバイスの機能、デバイス ID などの詳細をアダプタイズできます。

スイッチは次の基本的な管理 TLV をサポートしています。これらは必須の LLDP TLV です。

- ポート記述 TLV
- システム名 TLV
- システム記述 TLV
- システム機能 TLV
- 管理アドレス TLV

次の組織的に固有な LLDP TLV も LLDP-MED をサポートするためにアドバタイズされます。

- ポート VLAN ID TLV (IEEE 802.1 で組織的に固有な TLV)
- MAC/PHY コンフィギュレーション/ステータス TLV (IEEE 802.3 で組織的に固有な TLV)



(注)

スイッチ スタックは、ネットワーク内で 1 つのスイッチと見なされます。したがって、LLDP は個々のスタック メンバーではなく、スイッチ スタックを検出します。

LLDP-MED

LLDP for Media Endpoint Devices (LLDP-MED) は、IP 電話などのエンドポイント デバイスとスイッチなどのネットワーク デバイスの間で動作する LLDP の拡張機能です。LLDP-MED は特に Voice over IP (VoIP) アプリケーションをサポートし、機能検出、ネットワーク ポリシー、Power over Ethernet (PoE)、インベントリ管理、およびロケーション情報のための追加の TLV を提供します。デフォルトですべての LLDP-MED TLV がイネーブルにされています。

LLDP-MED は次の TLV をサポートします。

- LLDP-MED 機能 TLV

LLDP-MED エンドポイントで、接続されたデバイスがサポートしている機能と、デバイスでイネーブルになっている機能を判断できるようにします。

- ネットワークポリシー TLV

ネットワーク接続デバイスとエンドポイントの両方で、VLAN の設定とそのポート上の特定のアプリケーションに関連するレイヤ 2 およびレイヤ 3 のアトリビュートをアドバタイズできるようにします。たとえば、スイッチは、使用する必要がある VLAN 番号を電話機に通知することができます。電話機は、任意のスイッチに接続して、その VLAN 番号を取得して、コール制御との通信を開始できます。

ネットワークポリシー プロファイル TLV を定義することにより、VLAN、Class of Service (CoS; サービス クラス)、Differentiated Services Code Point (DSCP)、およびタギング モードを指定して音声および音声シグナリングのプロファイルを作成できます。その後、これらのプロファイル アトリビュートは、スイッチ上で集中的に維持され、電話機に伝播されます。

- 電源管理 TLV

LLDP-MED エンドポイントとネットワーク接続デバイス間の高度な電源管理を可能にします。スイッチと電話機により、デバイスの電源を投入する方法、電源の優先順位、およびデバイスが必要とする電力の量など、電源に関する情報を伝達できるようにします。

LLDP-MED は、拡張された電源管理 TLV もサポートし、所要電力、エンドポイントの電源の優先順位、およびエンドポイントとネットワーク接続デバイスの電力ステータスの詳細をアドバタイズします。ただし、エンドポイントとネットワーク接続デバイス間で電力ネゴシエーションは行いません。

Cisco IOS リリース 12.2(52)SE 以降、LLDP がイネーブルに設定され、電力がポートに適用されている場合、電源管理 TLV はエンドポイント デバイスの実際の所要電力を判断します。この電力に応じて、システム パワー バジレットが調整されます。スイッチは要求を処理し、現在のパワー バジレットに基づいて電力の供給または拒否を行います。要求が認可されると、スイッチはパワー バジレットを更新します。要求が拒否されると、スイッチはポートの電源をオフにし、Syslog メッセージを生成し、パワー バジレットを更新します。LLDP-MED がディセーブルになっているか、エンドポイントで LLDP-MED 電源 TLV がサポートされていない場合、初期割り当て値 (15.4 W) が接続の間中使用されます。

power inline {auto [max max-wattage] | never | static [max max-wattage]} インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力することにより、電源設定を変更できます。デフォルトでは、PoE インターフェイスは **auto** モードになり、値を指定しない場合は、最大値が許可されます (15.4 W)。

- インベントリ管理 TLV

エンドポイントで、ハードウェアのリビジョン、ファームウェアのバージョン、ソフトウェアのバージョン、シリアル番号、メーカー名、モデル名、および資産 ID TLV を含む、エンドポイントの詳細なインベントリ情報をスイッチに送信できます。

- ロケーション TLV

スイッチからエンドポイント デバイスまでのロケーション情報を提供します。ロケーション TLV は次の情報を送信できます。

- 都市ロケーション情報

都市の住所情報と郵便情報を提供します。都市ロケーション情報の例として、所在地住所、道路名、郵便コミュニティ名情報などがあります。

- ELIN ロケーション情報

発信者のロケーション情報を提供します。ロケーションは、緊急通話をローカルの PSAP (Public Safety Answering Point : 緊急通報センター) にルーティングする電話番号であり、PSAP が緊急通話の発信者にコールバックするために使用できる Emergency location identifier number (ELIN) によって判断されます。

接続ロケーション サービス

スイッチは、接続ロケーション サービス機能を使用して、接続されたデバイスのロケーションおよび接続追跡情報を Cisco Mobility Services Engine (MSE) に送信します。追跡できるデバイスは、ワイヤレス エンドポイント、接続エンドポイント、または接続されたスイッチまたはコントローラです。スイッチは、Network Mobility Services Protocol (NMSP; ネットワーク モビリティ サービス プロトコル) ロケーションおよび接続通知により、デバイスのリンク アップおよびリンク ダウン イベントを MSE に通知します。

MSE は、スイッチへの NMSP 接続を開始し、サーバ ポートを開きます。MSE はスイッチに接続すると、一連のメッセージ交換を行って、ロケーション情報の同期化後にバージョンの互換性およびサービス交換情報を設定します。接続後、スイッチはロケーション通知および接続通知を MSE に定期的に送信します。インターバル中に検出されたリンク アップまたはリンク ダウン イベントは、集約され、インターバルの終了時に送信されます。

スイッチはリンクアップまたはリンクダウン イベントでデバイスの有無を確認するときに、MAC アドレス、IP アドレス、ユーザ名などのクライアント固有の情報を取得します。クライアントが LLDP-MED または CDP 対応である場合、スイッチは LLDP-MED ロケーション TLV または CDP を通じてシリアル番号および UDI を取得します。

デバイスの機能に応じて、スイッチはリンク アップ時に次のクライアント情報を取得します。

- ポート接続で指定されたスロットおよびポート
- クライアント MAC アドレスで指定された MAC アドレス
- ポート接続で指定された IP アドレス
- 該当する場合は 802.1X ユーザ名
- デバイス カテゴリ (*wired station* として指定)
- ステート (*new* として指定)
- シリアル番号、UDI
- モデル番号
- スイッチがアソシエーションを検出してからの時間 (秒)

デバイスの機能に応じて、スイッチはリンク ダウン時に次のクライアント情報を取得します。

- 切断されたスロットおよびポート
- MAC アドレス
- IP アドレス
- 該当する場合は 802.1X ユーザ名
- デバイス カテゴリ (*wired station* として指定)
- ステート (*delete* として指定)
- シリアル番号、UDI
- スイッチがディスアソシエーションを検出してからの時間 (秒)

スイッチはシャットダウンすると、MSE への NMSP 接続を終了する前に、*delete* というステートおよび IP アドレスとともに接続通知を送信します。MSE は、この通知を、スイッチに関連付けられているすべての接続されたクライアントのディスアソシエーションと解釈します。

スイッチ上でロケーションアドレスを変更した場合、スイッチは、影響を受けるポートおよび変更されたアドレス情報を示す、NMSP ロケーション通知メッセージを送信します。

LLDP、LLDP-MED、および接続ロケーション サービスの設定

- 「LLDP のデフォルト設定」 (P.25-5)
- 「設定時の注意事項」 (P.25-5)
- 「LLDP のイネーブル化」 (P.25-6)
- 「LLDP 特性の設定」 (P.25-6)
- 「LLDP-MED TLV の設定」 (P.25-7)
- 「ネットワークポリシー TLV の設定」 (P.25-8)
- 「ロケーション TLV および接続ロケーション サービスの設定」 (P.25-9)

LLDP のデフォルト設定

表 25-1 LLDP のデフォルト設定

機能	デフォルト設定
LLDP グローバル ステート	ディセーブル。
LLDP ホールドタイム (廃棄までの時間)	120 秒。
LLDP タイマー (パケット更新頻度)	30 秒。
LLDP 再初期化遅延	2 秒。
LLDP TLV 選択	すべての TLV の送受信がディセーブル。
LLDP インターフェイス ステート	ディセーブル。
LLDP 受信	ディセーブル。
LLDP 送信	ディセーブル。
LLDP-MED TLV 選択	すべての LLDP-MED TLV の送信がディセーブル。LLDP がグローバルにイネーブルになっている場合は LLDP-MED-TLV もイネーブル。

設定時の注意事項

- インターフェイスがトンネル ポートとして設定されている場合、LLDP は自動的にディセーブルになります。
- ネットワーク ポリシー プロファイルを初めて設定したインターフェイスには、**switchport voice vlan** コマンドを適用できません。**switchport voice vlan vlan-id** がすでに設定されているインターフェイスには、ネットワークポリシー プロファイルを適用できます。このようにして、インターフェイスには、音声または音声シグナリング VLAN ネットワークポリシー プロファイルが適用されます。
- ネットワークポリシー プロファイルが設定されたインターフェイスでは、スタティック セキュア MAC アドレスを設定できません。
- プライベート VLAN ポートでは、ネットワークポリシー プロファイルを設定できません。
- 接続ロケーション サービスが機能するには、最初に **ip device tracking** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力する必要があります。

LLDP のイネーブル化

LLDP をイネーブルにするには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>lldp run</code>	スイッチ上で LLDP をグローバルにイネーブルにします。
ステップ 3	<code>interface interface-id</code>	LLDP をイネーブルにするインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<code>lldp transmit</code>	LLDP パケットを送信するインターフェイスをイネーブルにします。
ステップ 5	<code>lldp receive</code>	インターフェイスが LLDP パケットを受信できるようにします。
ステップ 6	<code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	<code>show lldp</code>	設定を確認します。
ステップ 8	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

LLDP をディセーブルにするには、**no lldp run** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。インターフェイス上で LLDP をディセーブルにするには、**no lldp transmit** および **no lldp receive** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。

次に、LLDP をグローバルにイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# lldp run
Switch(config)# end
```

次に、インターフェイス上で LLDP をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
```

LLDP 特性の設定

LLDP のアップデート頻度、廃棄するまでに情報を保持する時間、および初期化遅延時間を設定できます。送受信する LLDP TLV および LLDP-MED TLV も選択できます。

LLDP 特性を設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。



(注) ステップ 2 ~ 5 は任意であり、どの順番で実行してもかまいません。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>lldp holdtime seconds</code>	(任意) デバイスからの情報を受信側デバイスが廃棄するまで保持する期間を指定します。 指定できる範囲は 0 ~ 65535 秒です。デフォルトは 120 秒です。
ステップ 3	<code>lldp reinit delay</code>	(任意) インターフェイスでの LLDP 初期化の遅延時間 (秒) を指定します。 指定できる範囲は 2 ~ 5 秒です。デフォルトは 2 秒です。

コマンド	目的
ステップ 4 <code>lldp timer rate</code>	(任意) LLDP 更新の送信頻度 (秒) を設定します。 指定できる範囲は 5 ~ 65534 秒です。デフォルトは 30 秒です。
ステップ 5 <code>lldp tlv-select</code>	(任意) 送信または受信する LLDP TLV を指定します。
ステップ 6 <code>lldp med-tnv-select</code>	(任意) 送信または受信する LLDP-MED TLV を指定します。
ステップ 7 <code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 8 <code>show lldp</code>	設定を確認します。
ステップ 9 <code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルト設定に戻すには、各 LLDP コマンドの **no** 形式を使用します。

次に、LLDP の特性を設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# lldp holdtime 120
Switch(config)# lldp reinit 2
Switch(config)# lldp timer 30
Switch(config)# end
```

LLDP-MED TLV の設定

デフォルトでは、スイッチは、エンド デバイスから LLDP-MED パケットを受信するまで、LLDP パケットだけを送信します。その後、MED TLV を含む LLDP パケットも送信します。LLDP-MED エントリの期限が切れた場合、LLDP パケットだけを再度送信します。

`lldp` インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用して、表 25-2 に示した TLV をインターフェイスが送信ないように設定できます。

表 25-2 LLDP-MED TLV

LLDP-MED TLV	説明
inventory-management	LLDP-MED インベントリ管理 TLV
location	LLDP-MED ロケーション TLV
network-policy	LLDP-MED ネットワークポリシー TLV
power-management	LLDP-MED 電源管理 TLV

インターフェイス上で TLV をイネーブルにするには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

コマンド	目的
ステップ 1 <code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2 <code>interface interface-id</code>	LLDP-MED TLV を設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3 <code>lldp med-tnv-select tlv</code>	イネーブルにする TLV を指定します。
ステップ 4 <code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5 <code>copy running-config startup-config</code>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

次に、インターフェイス上で TLV をイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# lldp med-tlv-select inventory-management
Switch(config-if)# end
```

ネットワークポリシー TLV の設定

ネットワークポリシー プロファイルを作成し、ポリシー アトリビュートを設定し、インターフェイスに適用するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	network-policy profile <i>profile number</i>	ネットワークポリシー プロファイル番号を指定し、ネットワークポリシー コンフィギュレーション モードを開始します。指定できる範囲は 1 ~ 4294967295 です。
ステップ 3	{voice voice-signaling} vlan [<i>vlan-id</i> {cos <i>cvalue</i> dscp <i>dvalue</i>}] [[dot1p {cos <i>cvalue</i> dscp <i>dvalue</i>}] none untagged]	<p>ポリシー アトリビュートを設定します。</p> <p>voice : 音声アプリケーション タイプを指定します。</p> <p>voice-signaling : 音声シグナリング アプリケーション タイプを指定します。</p> <p>vlan : 音声トラフィックのネイティブ VLAN を指定します。</p> <p>vlan-id : (任意) 音声トラフィックの VLAN を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。</p> <p>cos <i>cvalue</i> : (任意) 設定された VLAN のレイヤ 2 プライオリティ サービス クラス (CoS) を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 7 です。デフォルト値は 0 です。</p> <p>dscp <i>dvalue</i> : (任意) 設定された VLAN の Differentiated Services Code Point (DSCP) 値を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 63 です。デフォルト値は 0 です。</p> <p>dot1p : (任意) IEEE 802.1p プライオリティ タギングおよび VLAN 0 (ネイティブ VLAN) を使用するように電話を設定します。</p> <p>none : (任意) IP 電話に対して音声 VLAN に関する指定を行いません。IP Phone のキーパッドから入力された設定を使用します。</p> <p>untagged : (任意) タグなしの音声トラフィックを送信するように電話を設定します。これが IP Phone のデフォルト設定になります。</p>
ステップ 4	exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 5	interface <i>interface-id</i>	ネットワークポリシー プロファイルを設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 6	network-policy <i>profile number</i>	ネットワーク ポリシー プロファイル番号を指定します。
ステップ 7	lldp med-tlv-select network-policy	ネットワークポリシー TLV を指定します。
ステップ 8	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 9	show network-policy profile	設定を確認します。
ステップ 10	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルト設定に戻すには、各コマンドの **no** 形式を使用します。

次に、CoS のある音声アプリケーションについて VLAN 100 を設定し、ネットワークポリシー プロファイルおよびネットワークポリシー TLV をインターフェイス上でイネーブルにする方法を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# network-policy profile 1
Switch(config-network-policy)# voice vlan 100 cos 4
Switch(config-network-policy)# exit
Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if)# network-policy profile 1
Switch(config-if)# lldp med-tlv-select network-policy
```

次の例では、プライオリティ タギングを使用したネイティブ VLAN に音声アプリケーション タイプを設定する方法を示します。

```
Switch(config-network-policy)# voice vlan dot1p cos 4
Switch(config-network-policy)# voice vlan dot1p dscp 34
```

ロケーション TLV および接続ロケーション サービスの設定

エンドポイントのロケーション情報を設定し、インターフェイスに適用するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	location { admin-tag <i>string</i> civic-location identifier <i>id</i> elin-location <i>string</i> identifier <i>id</i> }	<p>エンドポイントのロケーション情報を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> admin-tag : 管理タグまたはサイト情報を指定します。 civic-location : 都市ロケーション情報を指定します。 elin-location : 緊急ロケーション情報 (ELIN) を指定します。 identifier id : 都市ロケーションの ID を指定します。 <i>string</i> : サイト情報またはロケーション情報を英数字形式で指定します。
ステップ 3	exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 4	interface <i>interface-id</i>	ロケーション情報を設定するインターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	location { additional-location-information <i>word</i> civic-location-id <i>id</i> elin-location-id <i>id</i> }	<p>インターフェイスのロケーション情報を入力します。</p> <p>additional-location-information : ロケーションまたは場所の追加情報を指定します。</p> <p>civic-location-id : インターフェイスのグローバル都市ロケーション情報を指定します。</p> <p>elin-location-id : インターフェイスの緊急ロケーション情報を指定します。</p> <p><i>id</i> : 都市ロケーションまたは ELIN ロケーションの ID を指定します。指定できる ID 範囲は 1 ~ 4095 です。</p> <p><i>word</i> : 追加ロケーション情報の語句を指定します。</p>
ステップ 6	end	特権 EXEC モードに戻ります。

	コマンド	目的
ステップ 7	show location	設定を確認します。
ステップ 8	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

デフォルト設定に戻すには、各コマンドの **no** 形式を使用します。

次の例では、スイッチに都市ロケーション情報を設定する方法を示します。

```
Switch(config)# location civic-location identifier 1
Switch(config-civic)# number 3550
Switch(config-civic)# primary-road-name "Cisco Way"
Switch(config-civic)# city "San Jose"
Switch(config-civic)# state CA
Switch(config-civic)# building 19
Switch(config-civic)# room C6
Switch(config-civic)# county "Santa Clara"
Switch(config-civic)# country US
Switch(config-civic)# end
```

スイッチ上で接続ロケーション サービスをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。



(注) **nmosp** グローバル コンフィギュレーション コマンドをイネーブルにするには、スイッチで暗号化ソフトウェア イメージが実行されている必要があります。

	コマンド	目的
ステップ 1	configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	nmosp enable	スイッチで NMSP 機能をイネーブルにします。
ステップ 3	nmosp notification interval {attachment location} interval-seconds	NMSP 通知間隔を指定します。 attachment : 接続通知間隔を指定します。 location : ロケーション通知間隔を指定します。 <i>interval-seconds</i> : スイッチが MSE にロケーションまたは接続更新を送信するまでの時間 (秒)。指定できる範囲は 1 ~ 30 です。デフォルト値は 30 です。
ステップ 4	end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	show network-policy profile	設定を確認します。
ステップ 6	copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

次に、スイッチ上で NMSP をイネーブルにし、ロケーション通知時間を 10 秒に設定する方法を示します。

```
Switch(config)# nmosp enable
Switch(config)# nmosp notification interval location 10
```

LLDP、LLDP-MED、接続ロケーション サービスのモニタ およびメンテナンス

デバイス上の LLDP、LLDP-MED、および接続ロケーション サービスのモニタおよびメンテナンスを行うには、特権 EXEC モードで次のいずれかの手順または複数の手順を実行します。

コマンド	説明
clear lldp counters	トラフィック カウンタをゼロにリセットします。
clear lldp table	LLDP ネイバ情報テーブルを削除します。
clear nmsp statistics	NMSP 統計カウンタをクリアします。
show lldp	送信頻度、送信されるパケットのホールドタイム、インターフェイス上での LLDP 初期化の遅延時間などのグローバルな情報を表示します。
show lldp entry <i>entry-name</i>	特定のネイバに関する情報を表示します。 アスタリスク (*) を入力してすべてのネイバを表示することも、表示するネイバの名前を入力することもできます。
show lldp interface [<i>interface-id</i>]	LLDP がイネーブルに設定されているインターフェイスに関する情報を表示します。 必要なインターフェイスの情報だけを表示できます。
show lldp neighbors [<i>interface-id</i>] [detail]	デバイス タイプ、インターフェイスのタイプや番号、ホールドタイム設定、機能、ポート ID など、ネイバに関する情報を表示します。 特定のインターフェイスに関するネイバだけを表示したり、詳細を表示するために表示内容を拡張したりできます。
show lldp traffic	LLDP カウンタ（送受信されたパケット数、廃棄されたパケット数、認識されない TLV の数など）を表示します。
show location	エンドポイントのロケーション情報を表示します。
show network-policy profile	設定されたネットワークポリシー プロファイルを表示します。
show nmsp	NMSP 情報を表示します。

